

ISOパネル（第7回） 生体認証技術の金融サービスへの活用、今後の進展と 国際標準

日本電気株式会社 社会基盤ビジネスユニット

主席サイエンティスト BU CIPO・副CTO

ISO/IEC JTC1/SC37（バイオメトリクス）国内委員会 委員長

坂本静生

口座開設やローンの申込みに必要な本人確認を顔認証によりオンラインで完結 ～利便性・効率性向上で持続可能な事業モデルを確立～

中央労働金庫様

課題

- 非対面/リモートでもお客様に安心して相談・取引いただける環境や体制の整備

提供価値

- 非対面・非接触で手続き完了するお客様ニーズへの対応
- 業務効率化、スピード向上、ペーパーレス

ポイント

- eKYC 前後のシステムも含めたトータル提案
- 高精度な顔認証エンジンによるセキュアな本人確認

新規口座開設申し込みやローン手続きの オンライン化を実現する一連のシステムをトータルでご提供



顧客サービス向上

業務効率化

持続可能な事業モデルの確立

金融機関窓口での取引

課題

金融機関窓口でのセキュリティ強化と運用効率の両立、窓口利用者の利便性向上

ソリューション

QRコード® を用いた顔認証なりすまし防止ソリューション（SQRC®版）

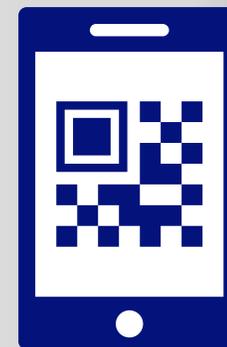
効果

印影及び捺印書類の保管コスト削減
個人情報金融機関に預けることなく、高度なセキュリティを実現
印鑑の紛失リスクを避け、利用者のCS（顧客満足度）を向上

- 撮影した顔画像の特徴量データをQRコードに出力してお客様のスマートフォンに格納
- 来店時に店内のカメラとQRコードの読み取りで個人を認証し、印鑑や個人情報の提出が不要
- ネットワーク環境の整っていない場所でも使用可能で、大きな設備投資なく実現

※ 協力：株式会社デンソーウェーブ、沖電気工業株式会社

※ QRコード® および SQRC® は株式会社デンソーウェーブの登録商標です



金融機関窓口において、手続きの印鑑レスを実現

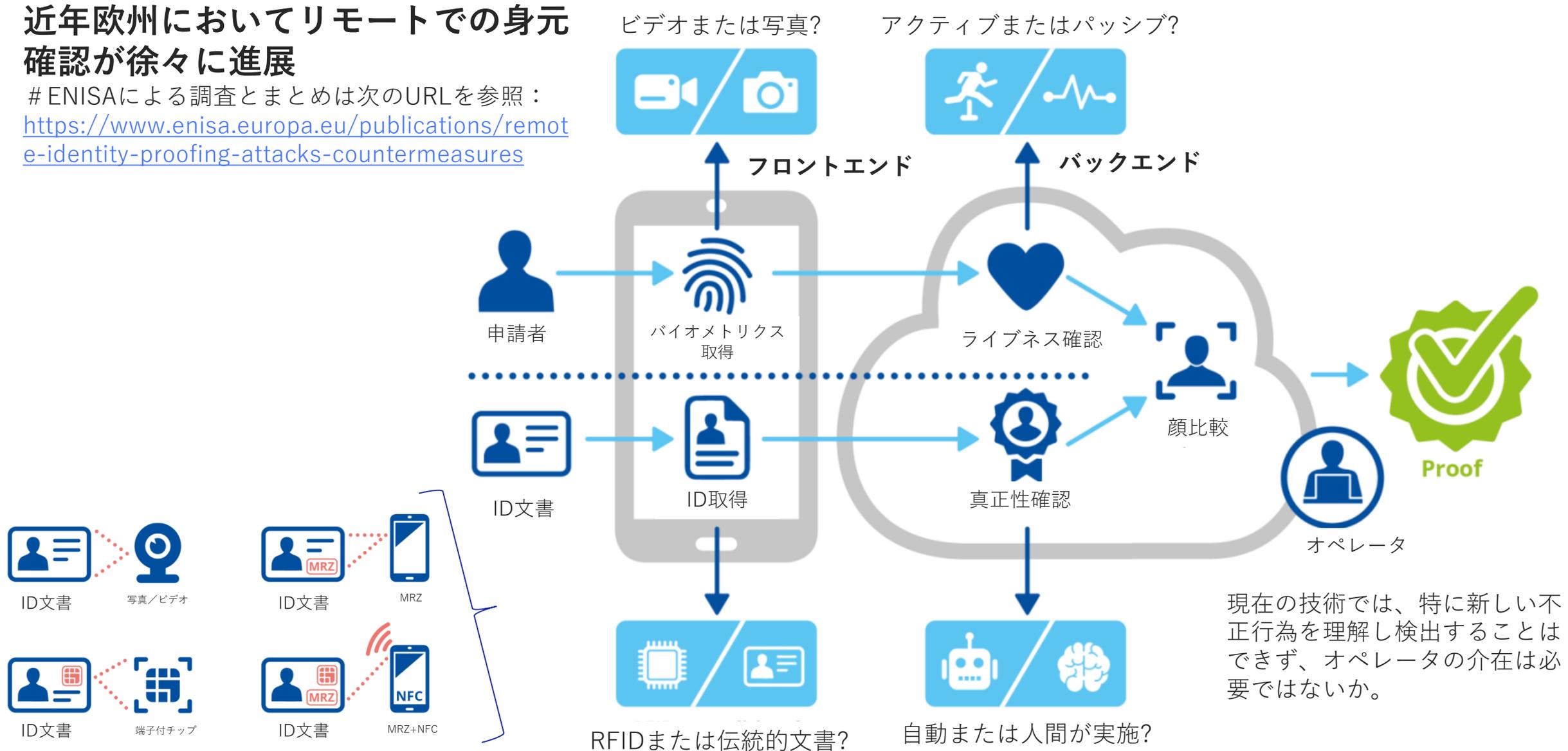


顔認証

リモートでの身元確認と信頼性

近年欧州においてリモートでの身元確認が徐々に進展

ENISAによる調査とまとめは次のURLを参照：
<https://www.enisa.europa.eu/publications/remot-e-identity-proofing-attacks-countermeasures>



現在の技術では、特に新しい不正行為を理解し検出することはできず、オペレータの介在は必要ではないか。



手法

ビデオまたは静止画



アクティまたは
パッシブアプローチ



RFIDまたは旧来の文書

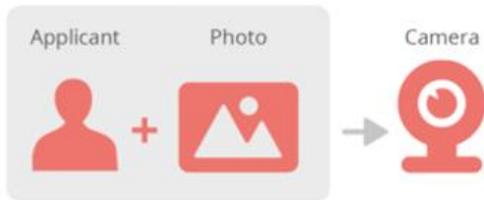


自動またはひとによる
検証



攻撃

静止画攻撃



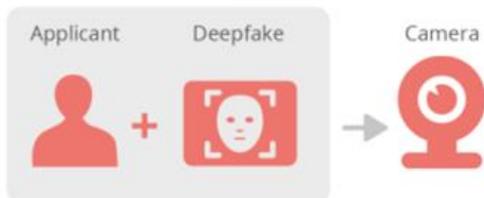
ビデオ再生



3Dマスク攻撃



Deepfake攻撃



対抗手段

環境管理策



ID文書管理策



提示攻撃管理策



組織的管理策



プロセス管理策



- 業界標準があればそれに従うこと
- 変化の激しいバイオメトリクス/サイバーセキュリティでは、最新の状況を把握し古い標準の限界を考慮すること
(ISO 19092・FIDOでもご活用いただいています)

プロセスを実行し完了するために使用するツールに関する管理が適切かどうかを判断

(一部) → ISO/IEC 29794シリーズ サンプル品質

プロセスで使用される ID 文書が真正かつ有効であることを確立するための、ID 文書の管理

提供された顔画像が実在の人物であることを確認するための管理

→ ISO/IEC 30107シリーズ 提示攻撃検知

ISO/IEC 19795シリーズ 精度評価と報告

プロセスの実施とそのモニタリングをより効果的に行うための組織的な管理

→ ISO/IEC 27000ファミリー 情報セキュリティMS

プロセスをより効果的にするために、プロセスの実行とそのステップを管理